

1. 教科名：芸術 科目名：芸術表現（美術）
2. 履修学年：3年（文系選択）
3. 単位数：2単位
4. 目標

芸術の幅広い創造活動をととして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。
 - (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
 - (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てる。
5. 授業内容及び授業形態
- (1) 美術系大学や専門学校進学を目指している生徒へはデッサン力の向上やそれぞれ専門分野の学習を中心に各自で計画を立てて進めていく。
 - (2) 鑑賞活動も積極的に行いながら、外部の展覧会へ赴き本物を見ることによって鑑賞力、表現力を高める。
 - (3) 制作した作品を校内で展示し、発表する機会を持つ。お互いの作品を鑑賞することにより、自己にはない他者の良さや違いを発見し多様性を認め視野を広げる。そして、自己の表現に活かしたり、美的感性を高めたりすることにつなげる。

6. 評価の方法

- (1) 観点別評価とする。「関心・意欲・態度」、「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」「鑑賞」の4観点とし、提出物や授業の取り組み状況を見て総合的に評価する。

5 = 80～100

4 = 65～79

3 = 50～64

2 = 35～49

1 = 0～34

(2) 評価の観点

- ① 関心・意欲・態度：美術を愛好し表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- ② 芸術的な感受や表現の工夫：感性を働かせて美術の良さや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的表現を工夫する。
- ③ 創造的な表現の工夫：創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する機能を身につけている。
- ④ 鑑賞の能力：作家の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

7. その他教科担当より

美術の授業は単に絵の技術を上達させる授業ではありません。造形活動や鑑賞活動をととして様々な視点や構想力、創造力や美意識、感性を高める目的があります。それらの能力は様々な分野に波及し力の一助となるものです。将来は自己実現へ向けて未来を切り開く人材になって欲しいと思います。